

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社 評価基準研究所

②施設・事業所情報

名称：鷺沼ピノキオ保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：森 友香里	定員（利用人数）： 60 名
所在地：川崎市宮前区東有馬4-5-20	
TEL：044-863-8280	ホームページ： <a href="https://seido-kai.com">https://seido-kai.com</a>
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2021年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人正道会	
職員数	常勤職員： 18名 非常勤職員 8名
専門職員	保育士 17名 管理栄養士 1名
	看護師 1名 栄養士 2名
	子育て支援員 3名 事務員 1名
	調理師 1名
施設・設備の概要	(居室数) (設備等)
0,1歳児 保育室1室	屋外テラス 中庭園庭 便所 児童用3室 大人用2室
2歳児 保育室1室	
幼児 保育室3室	
医務室 1室	
調理室 1室	
職員休憩室 1室	

③理念・基本方針

【理念】	共生と共学～社会で個を育み、個が社会と繋がっていく～
【方針】	子ども主体の保育の創造
・体育	～体を十分に動かし、健やかな心身の発達を促す～
・徳育	～人としての大切な心情を育む～
・共育	～人間関係向上のための5つの関係性を育む～
○子どもと親○子どもと保育者○子どもと子ども○保育者と親○子どもと地域	

④施設・事業所の特徴的な取組

1	保育（0歳～5歳児クラス）
2	延長保育 7:00-7:30 18:30-20:00
3	子ども食堂・おやこ園
4	障害児保育
5	子育て支援広場

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年8月1日（契約日） ～ 2024年 1月 11日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	回（ 年度）

⑥総評

## ◇特に評価の高い点

### 1) 「一度決めたことにこだわらない」を意識した保育計画の策定と実践がされている

特に幼児クラスでは子どもたち同士で話し合うサークルタイムや朝の会など、子ども達が普段から意見を述べ合う機会をなるべく多く持てるよう工夫がみられる。担当職員らが前もって立てた計画であっても、子どもたちと意見を交換すると当初の計画通りにいかないこともある。しかし、職員はそれを良しとし、児童が主体的に物事に取り組めるよう実践されている。本当の「主体性」を実践することは業界においても簡単なことではないが、当園では、職員一人一人の意識が高く、理想実現に向けて積極的である。「他人を気遣う」など社会性において発達途上の幼児期において、保育者がバランスよく見守り、主体的でありながら学びともなるよう支援している。

### 2) 障害の有無にかかわらずどの子にも寄り添うことを意識した行事計画となっている

一般的に言う“運動会”や“生活発表会”にあたる行事を当園でも実施しているが、当園では「成果重視」ではなく「プロセスを重視」した行事計画が今は実践されている。過去に行った一斉に同じ種目に取り組むタイプの運動会での子ども達の様子から園独自に教訓を引き出し、現在の行事計画に反映している。例えば現在の“生活発表会”においては、子どもたちの得意分野や苦手分野を子どもたちを交えて会議し、それぞれの特性や気持ちに寄り添った総合的な演出を子どもたちと考えている。子どもたちにとって新鮮な“裏方業務”なども情報として提供し、「やりたい」気持ちを引き出している。一斉と自由のバランスが上手に保たれ、多誰も取り残さない保育の実践が見られる。

### 3) 小学校や学童クラブとの連携や同学区の他の保育園との連携が進められている

開園から3年目にもかかわらず、すでに小学校や学童クラブ、近隣他園との連携が見られる。進学をふまえて小学校からの情報を保護者に共有したり、児童とともに学童クラブに見学に行ったり、近隣他園の同級生にあたる児童同士の交流の機会を作り、子どもたちが進学後の自分たちを少しでもイメージできる機会を創出している。11月ごろには保護者と進学を踏まえた面談を実施し、進学にかかわる悩みのヒアリングや相談を受け付けている。保護者と一緒に就学前の準備を整える園の姿勢を示すことは、卒園後の先を見据えた子育て支援となっている。

## ◇改善を求められる点

### 1) 理念や方針の周知について達成基準を設け、着実な取り組みによって理解を深めていくことに期待する

開園当初から公立園からの移行に伴い、園の理念や方針、保育方法について保護者への説明に努めてきた。園内掲示、重要事項説明として説明、連絡帳アプリケーション

への掲載、ピノキオ会議（懇談会）や行事での説明などに努めている。職員にも法人・園内研修、自分の言葉で伝える機会を設けるなど日常的に取り組んでいる。しかし、全ての人々が十分に理解しきれていないことを園長は課題と認識している。すべての保護者・職員に十分に理解を得ることは困難な事であり、各自の理解度合いにはばらつきが生じることを前提として考えなければならない。今後は、ポイントを絞り込んで伝えたり、達成度合いの目標を設定し評価して次期の対応を検討するなど、理念や方針の周知に向けて着実な取り組み方法を確立していくことを期待する。

## 2) 園独自の中期計画、単年度事業計画、事業実施（取り組み）のための計画、評価、フィードバックが一貫した仕組みの確立が求められる

公立園から移行して2年目であり、新しい保育へ変更することに対する保護者理解の獲得、職員体制の安定化、子育て支援事業、地域関係機関との連携体制の構築など単年度事業計画に基づいて様々な取り組みを行ってきた。取り組みは成果を出しており、取り巻く環境への対応も安定しているように見受けられる。さらに新たな取り組みや挑戦も検討している。これらの状況を踏まえると、将来に向けた方向性を検討する段階に来ていると推察できる。今後は、園の長期展望に基づいた中期計画を作成し、これに基づいて単年度の事業計画、さらに事業実施計画を作成することが求められる。それぞれの計画は、計画ごとにPDCAサイクルの仕組みで評価（事業報告）し、各計画を連動させて一貫性を持たせることが求められる。

## 3) 長期的な展望を踏まえてリーダー職員の育成をより積極的に行うことに期待する

法人ではリーダー職員の育成するための研修を行っており、園からも対象者が参加している。目標管理による職員育成項目にリーダー職員向けの項目があり、より内容を充実させる予定がある。また、毎月CAM（コーチアンドミックス）会議を行い、園長がマネジメント的な視点で副主任の育成を行っている。一方で、法人の中期計画には新たに園を新設する予定があり予定に合わせてリーダー職員の育成する必要性が予想される。また、今回の調査では園長の業務量が多い様子が伺えた。今後は、例えば事業継続計画の中で定めている園長の代理職員が日常的に実践を通して訓練をしたり、一般職員にリーダーの権限を委譲し実務を行いながら育成を行うなど、さらに一歩踏み込んだ取り組みが望まれる。また、園長などリーダー職の魅力発信するなど、職員の意識喚起にも期待する。

### ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

事業所名：鷺沼ピノキオ保育園

- ・自園が提供している福祉サービスの質について専門的かつ客観的な立場から評価をいただきました。
- ・こども主体の質の高い保育を目指すと共に、具体的な目標設定を行う上での客観的指標となりました。
- ・利用者アンケートでは、保護者の皆さまや職員が本音で意見を伝えられる場となり、自園の強みや改善点が明確になりました。
- ・評価結果が高い項目については今後さらに推進し、改善を求められた点については十分に検討を行った上で職員一体となり、より良い施設を目指して具体的に取り組みをしてまいります。
- ・今回、得られたものを今後の園運営、保育に活かし、園全体の保育の質の向上に努

め、地域に関かれ信頼される保育園、地域資源となるよう努めてまいります。

⑧第三者評価結果  
別紙2のとおり